

所属名	1. 「長岡市自殺対策計画の進捗状況」に対する意見・感想	2. 令和4年度各団体・関係機関の自殺予防に関する取組み
長岡市医師会	精神科のクリニックの医師から、通院中の方が自殺された場合のフィードバックがあると、今後の治療に生かされると考えられるが、いかがでしょうか。	かかりつけ医、精神科医療スタッフとの間で情報共有を図っている。今後、未遂者に関して、消防、地域スタッフ、医療者との間で情報共有や振り返りをする機会があると良いのですが。
新潟県弁護士会	<ul style="list-style-type: none"> <li>働き盛り世代の男性の自殺者数・率がコロナ禍でも落ち着いていますが、これから融資金の返済が始まり、自殺リスクが高まる可能性が高いので要注意だと思います。</li> <li>物価高で生活困窮者の生活状況は厳しい状態なので、困窮者支援の必要性が高いと思います。</li> <li>若者、高齢者の居場所作りが必要だと思います。こども食堂、サークル等、敷居が低く、楽しい企画がいいと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>弁護士会としては、コロナ禍が落ち着かず、対面式での集会・勉強会の開催が中止傾向にあった。</li> <li>自殺対策につき、長岡地区弁護士については、各弁護士の個別対応に拠るところが大きかった。弁護士各人が、通常業務や、他の社会活動を抱えて多忙であることもあり、弁護士会としての活動が困難であった。</li> <li>困難事案については、本人に対する実質的支援、及び、支援者の負担軽減のためにも、実質的な連携が問われるところ、支援者間で顔が見える場が増え、次第に、連携が図れる傾向になっていると思われる。</li> </ul>
長岡市薬剤師会	資料No.1の「長岡市の自殺の現状について」より、40歳代、50歳代、60歳代男性の数が多く、全国比較においても比率が高い。これらの現状を知らない人も多と感じる。自殺は、自分の問題と思い込みがちだが、社会の問題として、もう少し広く知ってもらったほうが、本人もその周囲の人たちも対応の仕方が変わるのではないかと。	当会会員の薬剤師を対象に「自殺危機初期介入スキルワークショップ」を継続している。日常の仕事から相手(患者)の変化を見逃すことなく、声掛けを含めて次の行動を起こせることを目的とし、学んでいる。しかし、ワークショップ形式のため、コロナ禍において、今年度の開催も見送られている。次年度も未定。
新潟県臨床心理士会	様々な取組みで、着実に少しずつ進んでいることが感じられました。コロナ禍や社会状況の悪化等から、なかなか成果には直結していかない困難さも感じられました。自殺対策の難しさがあらためて再確認できました。	昨年度、新潟県では高校生の自殺件数が多くあったこともあり、臨床心理士として自殺対策や対応はとても大切なことと捉えられてはいますが、組織全体でそこに取り組むとまでは至っておらず、個々人の努力にゆだねられている部分が多いです。
長岡地域病院ソーシャルワーカー連絡会	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的に達成度が高い事業が多く、順調に実施されていると思われました。</li> <li>重点施策の高齢者を対象者とした取組については、E(取りやめ)、F(その他)が半数以上見られたので、来年度の事業の充実を期待したいと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度に引き続き、</li> <li>取組内容は、医療機関として、うつ病等の入院・通院治療に関する相談を受け、関係機関との連携を図る。</li> <li>課題としては、自殺企図等の患者さんに関して、関係機関との連携をいかにスムーズにできるか。</li> </ul>
新潟県高等学校長協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料1の「3. 長岡市の自殺者」について、令和3年に初めて女性の数が男性の数を上回っていることが気になりました。</li> <li>資料2について、様々な取組をされていることがわかりました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校長協会の取組みではありませんが、県立学校では、県教育委員会生徒指導課作成の「新潟県自殺予防教育プログラム(高等学校編)改定版」を活用して全ての学年で自殺予防授業を行うことにしています。1年生対象には「SOSの出し方」、2年生対象には「友達から相談を受けたときの対応」、3年生対象には「高校卒業後の対応や相談先」をテーマに実施しています。</li> </ul>
長岡商工会議所	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権・男女共同参画課様が実施された「食とメンタルヘルス」講座について、詳しく伺いたい。</li> <li>月別自殺者数の推移において、R1年を除き1度ないし2度、自殺者が急増している月があるが、コロナ感染拡大時期の規制との因果関係はあるのでしょうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長岡市健康課 多世代健康づくり推進室と連携し、ゲートキーパー研修を実施した。(参加者23名)</li> <li>当所の無料相談メニューにある「労務・メンタルヘルス相談」では6件中2件がメンタル不調者を雇用している企業からの相談であった。</li> <li>※他の関係機関と違い、自殺を考えている方との直接対応はないが、上記のように経営者がメンタル不調者と真摯に向き合うことで、失業は回避され自殺者減につながるような支援を継続していきたい。</li> </ul>

所属名	1. 「長岡市自殺対策計画の進捗状況」に対する意見・感想	2. 令和4年度各団体・関係機関の自殺予防に関する取組み
長岡市民生委員・児童委員協議会		民生委員を対象とした「ゲートキーパー研修」を令和元年度から実施しており、令和4年度も実施する予定であったが、新型コロナウイルスの影響で中止となってしまった。令和5年度もゲートキーパー研修を計画し、民生委員へゲートキーパーの周知を図りたい。
NPO法人 女のスペース・ながおか	5つの基本施策に対し、どの事業も7～9割強の達成度となっており、各担当課が積極的に自殺対策計画に取り組まれていることがわかりました。 人材育成や啓発・周知等は、自殺対策に限らず他事業での実績を踏まえ比較的展開しやすい事業と思われませんが、「地域におけるネットワーク強化」「SOSの出し方・受け止め方への支援」は事業内容をどのように捉えるかで変わる面もあるように思います。現在、各担当課、関係機関が実施している事業内容や既存のネットワーク、情報をどのように連携、共有あるいは活用するかが課題だと感じました。 情報共有や事業連携としても有効活用が期待される「つなぐシート」ですが、実際の現場では状況に応じて迅速な対応が求められる場合もあり、電話などでのやり取りが優先される現状はあると思います。しかし「つなぐシート」は自殺ハイリスク者の掘り起こしのためのツールでもあると思いますので引き続き活用方法を検討していただきたいです。	当法人は、相談者が抱える「悩み」の要因が何か、目に見える現状の課題点だけではなく、過去の経験や成育歴などからトラウマケアを必要とする状況かどうかを意識した相談支援活動を中心掛けています。相談者の状況を見極め、具体的支援が必要であれば適切な機関へ繋ぐなど(同行支援も含め)の活動も行っています。相談者の声を丁寧に聴くことが自殺予防の第一につながると考えています。そのため相談員の資質向上も必須であるため、支援者養成講座の企画運営も継続して実施しています。 また、各機関が主催する研修、勉強会、講座、会議等に参加し、自殺予防に対する理解を深め、関係機関それぞれの取組みも参考させていただきたいと考えています。  (課題点) 当法人のシェルター施設を運用するにあたり、実務面の改善が課題となっている。(DV被害者だけではなく、行き場のない女性が自立再建にむけ一時的に利用できるよう「ステップシェルター・ゆかり」の運用を開始した為)
長岡市社会福祉協議会	ゲートキーパー研修をそれぞれ現場で職員の研修として行っておられる現状を知り、当会としても導入の必要性を感じました。 また、事例の検討会などで、実際に何がきっかけで、どんな支援があったらよかったのかなど共有できるとよいのではないかと思います。	日頃実施している相談所の運営や、地域で交流の機会をつくる地域福祉活動の取組みについては、以前の報告のとおりです。 新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金特例貸付の償還が今年1月から始まり、償還免除、償還猶予の手続きも行われています。特例貸付は昨年9月までで終了していますが、現在も生活費の不足の相談や、新学期を控え修学資金の相談が寄せられています。
長岡労働基準監督署		「労働者の心の健康の保持増進のための指針」に基づき、職場における労働者のメンタルヘルス対策を推進しています。具体的には、ストレスチェックの普及をはじめ、事業場を訪問した際に、リーフレットを交付して説明を行うほか、メンタルヘルス対策指導会を開催しています。
長岡警察署	市が取り組まれている相談窓口やコミュニティの充実に対し、そこに自殺企図者を繋げるための広報や関係機関との連携に努めていきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・警察本部、警察署、交番、駐在所で相談受理した場合のほか、事件・事案・巡回連絡などの警察活動を通じて把握した場合において、助言・説得を行うと共に、関係機関の紹介及び同機関への情報提供・引継ぎに努めています。</li> <li>・自殺企図事案を認知した際は、消防と連携して、現場での説得、制止、救助、救命等、命を守る活動を実施しています。自殺企図者の行方不明事案に対しても、警察力を発揮した調査活動を実施して発見に努めています。</li> <li>・自殺予告など、インターネットへの書き込みを認知した際は、本部サイバー犯罪対策課と連携し、緊急的に書き込み者の特定に努め、自殺防止対策を実施しています。</li> </ul>

所属名	1. 「長岡市自殺対策計画の進捗状況」に対する意見・感想	2. 令和4年度各団体・関係機関の自殺予防に関する取組み
長岡地域振興局健康福祉環境部	<p>・資料1「8感染症拡大前5年平均自殺者数との比較」で、長岡市の高齢女性の自殺増加が著しいことが記載されています。今年度は長岡市と協働し、この高齢女性の自殺について実態把握する機会をいただきありがとうございました。引き続き、関係者のお力をいただきながら、協働し支援に努めていきたいと考えています。よろしく申し上げます。</p> <p>・資料2において、各関係部署・機関がそれぞれゲートキーパー研修などを通して、自殺予防意識と対応力の向上を図っているとともに、実際に、自殺ハイリスク者を認めた時には、関係部署・機関と連携して対応する(した)と記載してくださっています。①実際にそうした(関係各所が連携し支援)ケースは何ケースくらいあったのか、②それらケースを自殺担当の部署では把握ができる仕組みなのかの2点についてご教授ください。</p> <p>点でキャッチしたものを面で支援していくための連携の仕組みづくり(コーディネート機能をどのように発揮するか)が具体化されるととてもよいと考えます。</p>	<p>・ハイリスク者のうち重点的に対象としたのは「若者」であり、若者対策をテーマに関係者との検討会や高等学校への出前講座を実施するほか、モデル校を設定して学校での支援体制の構築に向けた取組を実施しました。</p> <p>・さらに、(1にも記載したように)コロナ禍にあり管内では全国と異なり、高齢女性の自殺が増えたことから、長岡市と協働し地域包括支援センターの協力をいただき、実態の把握を行いました。高齢女性への対策を含め、コロナ禍の影響と支援の実際に関しては、12月にオンラインで検討会を開催し、関係機関の皆様と共有しました。</p> <p>・その他、関係機関と協働しながら個別ケースの支援を行うとともに、相談対応、普及啓発等を実施しています。</p> <p>・これら実施を通して、「必要な方にいかにタイムリーな情報を届け、支援につなげるか。」という点と、地域全体で「お互いさま」と思えるポピュレーションアプローチの方法を課題と考えています。また、医療機関と連携した未遂者対策にも取り組みたいと考えています。</p>
中越地域のちここの支援センター		
新潟青陵大学		
長岡大学		